

第2回湯河原町地域公共交通「意見交換会議」議事要旨（3日目）

日時：平成30年1月26日（金）

18：30～19：40

場所：湯河原町役場第2庁舎3階会議室

参加者数：4名

- ・湯河原町は過疎地に近い町である中で、総合戦略プランで掲げられている内容に取り組むことが重要です。
全体的に公共交通をどのようにしていきたいのか分かりません。既存の公共交通と競合することを恐れているように感じます。デマンド交通は失敗している自治体が多く、何を目的に行っているのか全く分からない。
- ・買物バスは非常に効果が高いと思いますが、もう少し既存交通事業者に対する利権を取り除いて取り組んで頂きたいと考えており、町の方でデマンド交通に誘導しているようにしか思えない。
→1ページの路線バスを利用する場合の利用場面として、買物、通院が多いです。町には山坂が多い特性がある中で、このような地域に入り込んだ公共交通が適当と考えています。
- ・城堀エリアですが、山の上に住んでいる高齢者は外出する際、非常に苦労しています。
デマンド交通とタクシーの違いは何ですか。
→タクシーは24時間利用可能でドア・ツー・ドアのサービスですが、デマンド交通は出発時間が決まっており、エリア内の乗降ポイントのみで乗車可能、また、乗合い乗車という点です。
- ・車椅子利用者は対象でないのか。
→基本的に自力で外出可能な方で、付き添いで外出できる方です。車いすを車にしまうことは可能かと思われます。
- ・小田原市で以前有償運送を行っていた。決められた場所まで行くのがネックで、ドア・ツー・ドアでないと意味がないと思う。福祉有償運送の方が利用されると思う。
高齢者は、特定のドライバーとのコミュニケーションを求めている。デマンド交通の場合、ドライバーが指定できない。あの運転手の車を利用したいとならないと利用が伸び悩まないと思います。
- ・高齢者はあの運転手が嫌という方もいます。親しみやすさが大事だと思います。

- ・福浦エリアは目的地が湯河原駅となっていますが、近いのは真鶴駅で、生活実態と合っていないと思います。
→湯河原駅周辺の商業施設等への利用を想定しています。
- ・デマンド交通より定時定路線の方が利用しやすいのではないかと。定時定路線型で運行し、掛かる経費については利用者（受益者）が負担すべきではないかと。
- ・運賃割引は障害者、免許返納者以外で、高齢者の割引はないのか。
→高齢者の割引制度はありません。
- ・これまで参加した意見交換会はどの位ですか。
→70名程度です。
- ・どうしてバスにしなかったのですか。
→対象者は高齢者、交通不便地域が傾斜地であること考慮すると、広い通りのバス停まで、降りてきてもらうのは困難で、地域全体をカバーできないためです。
地域の方から、ある程度家の近くまでに入ってきた路線がほしいとの意見をいただいています。
- ・オレンジラインだけでもバスの方が良いのではないかと。実証運行期間は最低でも2～3年必要だと思います。運賃は受益者負担で考えるべきだと思います。
→平成27年度に行ったアンケート調査では、200円であれば利用するという結果でした。
- ・評価基準は作っていますか。デマンド交通についてどのように評価していくのか。
→公共交通網形成計画の中で、新たな公共交通による外出機会の増加、利用満足度などを評価基準としています。
- ・交通事業者へ支払う費用については歩合ですか。
→契約内容の詳細は未定です。交通事業者への支払いは、運行経費と収入の赤字補填とする予定です。
- ・便数は4便で決定ですか。
→実証運行中の利用実績、アンケート調査などを踏まえ、検討します。
- ・交通事故があった場合は交通事業者の保険で処理しますか。
→委託契約の中で事業者の保険対応とする予定です。

- ・予約が多かった場合、利用できないのか。
→予約制のため、利用できない場合もあります。